

平成24年度宮沢賢治記念館運営審議会会議録

出席委員 阿部弥之（会長） 押切郁（会長職務代理者） 高橋和宏 高橋則子
中島健次 三浦公朗
欠席委員 菊池英雄
事務局 佐藤館長 牛崎副館長 中島学芸員

委嘱状交付

職員紹介

1 開会 牛崎副館長

2 あいさつ 佐藤館長

3 議事

(1) 会長の選出について

阿部委員に決定

(2) 会長職務代理者の選出について

押切委員に決定

(3) 平成23年度事業報告について 牛崎副館長説明

〈冬季期間の入館者数について〉

(高橋(和)委員) 冬道の問題が解決すればよくなるものなのか。

→道路環境が良くないため(道路の凍結、道が狭い)、観光関係の業者は冬はツアーを組まない。また、遠くから来る一般のお客さんは普通タイヤで来るため、雪道を上れない。そのため、冬はお客さんが少なくなるが、これが改善されれば間違いなく良くなる。ただ、冬の観光全体については、岩手県、花巻全部落ち込むので、記念館の課題でもあり、全体の課題でもある。今そのことについて賢治のまちづくり委員会の中でも大きな話題となっている。

(阿部会長) (冬の入館者数の減少を受けて) 発想を変えて冬だから来るというようにすればよい。

ex) リフト、ロープウェイを作る、シャトルを走らせる、冬の眺めをアピールするなど

〈賢治の世界セミナーについて〉

(高橋(和)委員) 1～6年生までを対象に同じ内容でやるのは難しいのではないかと。→以前はこちらから内容を指定し、一般的に講師が難しい話をする傾向にあったが、今は学校の希望をとっている。以前のイメージで好意的でない学校もあるが、その一方で全校からリクエストをもらうところもある。いろいろな学校があるが、その根底にあるのは、先生方が賢治に対して興味を持っていないということ。研修をさせるなど、働きかけていきたい。

〈賢治と震災について〉

(三浦委員) (震災関連のお客さんが増えたことを受けて) 観光面だけでなく、「雨ニモマケズ」のあり方など、震災と関連付けた企画をしてほしい。

(4) 平成24年度事業計画について 牛崎副館長説明

〈開館記念行事について〉

(押切委員) 全国の方たちの希望に添えるような内容を期待する。

(中島委員) 記念館として何かやらないのか。

→9月21日に記念館で朗読会をやる。また、(入館者数が)今年6のぞろ目の日が出てくるため、それもアピールできる。さらに、チェロとバイオリンの演奏もある。大々的にやりたかったが、予算の関係でこのようなかたちになった。9月21日は特異日なので盛り上げていきたいし、マスコミを上手く使っていきたい。

(押切・中島委員) 記念館に来た人に対して30周年ということを認知させてほしい。

(阿部会長) 30周年を迎えて、記念館として何が次の課題か、方向性を示さなければならぬと思う。

4 その他

〈イーハトーブ館について〉

(中島委員) イーハトーブ館の動向(研究者、入館者等)を知りたい。

(阿部会長) 記念館など周辺施設との調整が必要。学会の事務局があるので、境目がはっきりしていないのが課題だ。指定管理についても課題。学会との話し合いも必要

5 閉会 牛崎副館長